



FACULTY OF LETTERS

文学部生のリアルな！ 学生生活

Vol. 59

13専攻・1プログラムから成る文学部の充実したキャンパスライフと、
文学部ならではの多様な学びの情報を発信します。

日本史学専攻の学び

日本史学専攻では、古文書や古記録といった資料を基にした実証的な歴史学を学ぶことができます。私は幼い頃から歴史を勉強することが好きだったため、日本史学専攻を選択しました。しかし、入学当初は専門的に研究したい時代が決まっておらず、1、2年次には古代から近現代まで幅広い授業を受けました。3年次には、さまざまな時代について学びを深める中で、武士



好奇心が導いた学びと挑戦

文学部人文社会学科日本史学専攻4年
福島県立郡山高等学校出身

橋本 英彦
はしもと ひでひこ

の力が強まった中世に最も興味を持ち、中世史ゼミを選択しました。現在所属するゼミでは、複数の歴史資料を読み解き、一つの事象をさまざまな視点から比較することで複眼的に思考する力を涵養しています。

そして、大学入学後は幅広い分野について学びたいと考えていたため、興味を抱いた科目を積極的に受講するよう心掛けました。その中でも、山梨県の遺跡で行われている発掘調査に参加した「考古学実習」という授業が印象に残っています。この授業では、遺跡の計測方法や史料の記録・保存方法といった考古学の調査研究に必要な知識を、発掘現場で実践的に学ぶことができました。

学芸員課程

私は2年次から学芸員課程を受講し、学芸員資格の取得に取り組みました。文学部では教職課程や資格課程を修了することで、専門的な資格を取得する



博物館実習で取り組んだ化石発掘

ことができます。

日本史学を専攻する私は、歴史に関する知識だけでなく、資料の収集・保存や調査・研究手法への理解も深めたという思いで学芸員課程の受講を決断しました。学芸員課程は、大学で資料の保存方法や扱い方、博物館の運営について学び、実習先の博物館で実践するという流れで進みます。私は地元の福島県立博物館で、1週間ほど実習に取り組みました。実習では、資料の取り扱いについて詳しく学んだり、ワークショップを開催して来館者に博



図書館の展示レイアウトを思案

物館・学芸員の役割を伝えたりと、幅広く学芸員の仕事について理解を深めることができました。私は学芸員課程を通じて、専門的な知識を学び、博物館や学芸員の重要性を再認識しました。博物館は文化財の保全を行うとともに、学びを提供する場として、社会に必要不可欠な存在です。また、学芸員は文化財の収集や調査、保存を通じて、地域の歴史・文化を後世に伝える役割を果たしています。今後は、このような博物館や学芸員の存在意義・社会で果たす重要な役割について、微力では

ありますがより多くの人々に伝えていきたいです。

大学図書館でのアルバイト

私は現在、多摩キャンパスの中央図書館でアルバイトをしています。普段は、書籍の管理や書庫の整備、カウンター対応といった業務を通じて、利用者が図書館で快適に過ごせるよう努めています。また、学生アルバイトでイベントの企画案を考えたり、オープンキャンパスの運営に携わったりと、1年を通じて楽しみながら働くことができます。アルバイトとして働く同僚には、国際経験が豊富な人や自分の興味関心のあることに没頭する人がおり、刺激的な毎日を送っています。

私は図書館でのアルバイトを通じて、充実した学生生活を支える裏側を知ることができました。それまでは、学生という立場でしか図書館を利用していなかったため、裏側を知る機会はまったくありませんでした。しかし、図書館のアルバイトを始め、学習環境の整備や快適性の向上に尽力する職員の方々の思いを肌で感じたことで、大学での学びが多くの人々に支えられていることを実感しました。現在は、そのような職員の方々の姿勢を見習い、学生の方々が快適に利用できる環境づくりに取り組んでいます。働く中で、カウンター対応中に感じた課題をメン

バーと共有したり、業務の効率化を図ったりするなど、常にメンバーと協力してサービス向上に努めています。今後も、学生アルバイトとの意見交換を重ね、職員の方々に助言を頂きながら、快適な利用環境を実現できるように日々努力していきたいです。

文学部公式SNSの運営

私は3年次から、職員の方々や7人のメンバーと共に、文学部公式Xの運用にも挑戦しています。きっかけは、自分が学生生活の中で感じた文学部や中央大学の魅力を他者に伝えたいという強い思いでした。私は地方出身ということもあり、大学の雰囲気や自分の目で確かめる機会がそう多くはありませんでした。そのため、学生が主体となつて文学部の魅力を発信することのできるこの活動であれば、学内外に向けて学生の日常をありのままに伝えられると考え、挑戦を決意しました。

この活動では主に、特徴的な学びや学修環境、学生生活といった文学部の



文学部公式 X

文学部だより

学生の「居場所」として

哲学共同研究室

文学部の哲学専攻は、西洋哲学と東洋哲学を同時に学ぶことができる専攻です。「哲学」という単語だけをみると、複雑で難解なイメージを持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、哲学は人間の素朴な疑問から誕生した学問です。日常のあらゆる「問い」に対し、専門性という狭い枠組みにとらわれることなく、「より広く・より深く」思考する学問となります。そんな哲学専攻には、学生の学びをサポートする施設として図書室と演習室、面談室やPC作業スペースなどの複合的な機能を兼ね備えた「哲学共同研究室」がございます。

哲学共同研究室では、昔から「読書会」が盛んに行われております。「読書会」は大学の講義とは異なり、有志で哲学書を少しずつ読み進めながら議論し、理解を深める会です。参加者は学生・院生・教員・社会人とさまざま。近年は学生が主体となって読書会を企画・運営しています。この世代間を超えた活発な交流が、哲学専攻の大きな

特徴ともいえます。開催方法も時代とともにアップデートされ、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催されているものもあります。開催場所はどこでも構いませんが、哲学共同研究室で開催する大きなメリットは、参考書や辞典・辞書、専門書がすぐそばにあること。約3万5千冊の図書を利用できます。また、オンライン開催用にWebカメラも常備してあります。

哲学書を手に取りながら、時には真剣に議論を交わしあい、時には和気あいあいと語りあっている様子を見聞きしていると、「共同研究室」という居場所の大切さをひしひしと感じます。卒業後も来室してくれるOB・OGもいます。読書会だけでなく、さまざまな交流の場としてこの空間をこれからも提供できるよう、日々努めてまいります。

今回ご紹介したのは哲学専攻の共同研究室になりますが、各専攻で共同研究の雰囲気や特徴が異なりますので、ぜひたくさん訪れてみてください。



哲学共同研究の窓からは、四季折々の景色が楽しめます

魅力についてXを通じて発信しています。私はXを通じて魅力発信の中で、「学生目線」を常に大切にしています。学生の視点から学習環境や学生生活について発信することで、親近感を抱いていただけるよう心掛けています。また、キャンパスメンバーズをはじめとする文学部の制度や文学部生のアドバ

イスを紹介するなど、充実した学生生活のサポートにも注力しています。このような取り組みを通じて、文学部の魅力をより多くの方々に知っていただけるよう努力していきたいです。今後も、さまざまな角度で文学部の魅力について発信していくので、ぜひご覧ください。